

## 2. 家庭について

### (1) 固定的性別役割分担についての意識

問5. 「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○印は1つ)

固定的性別役割分担についての意識を尋ねたところ、『賛成派』(=「賛成」+「どちらかといえば賛成」)の割合は31.5%、『反対派』(=「反対」+「どちらかといえば反対」)の割合は45.8%となっており、反対派が賛成派を上回っている。

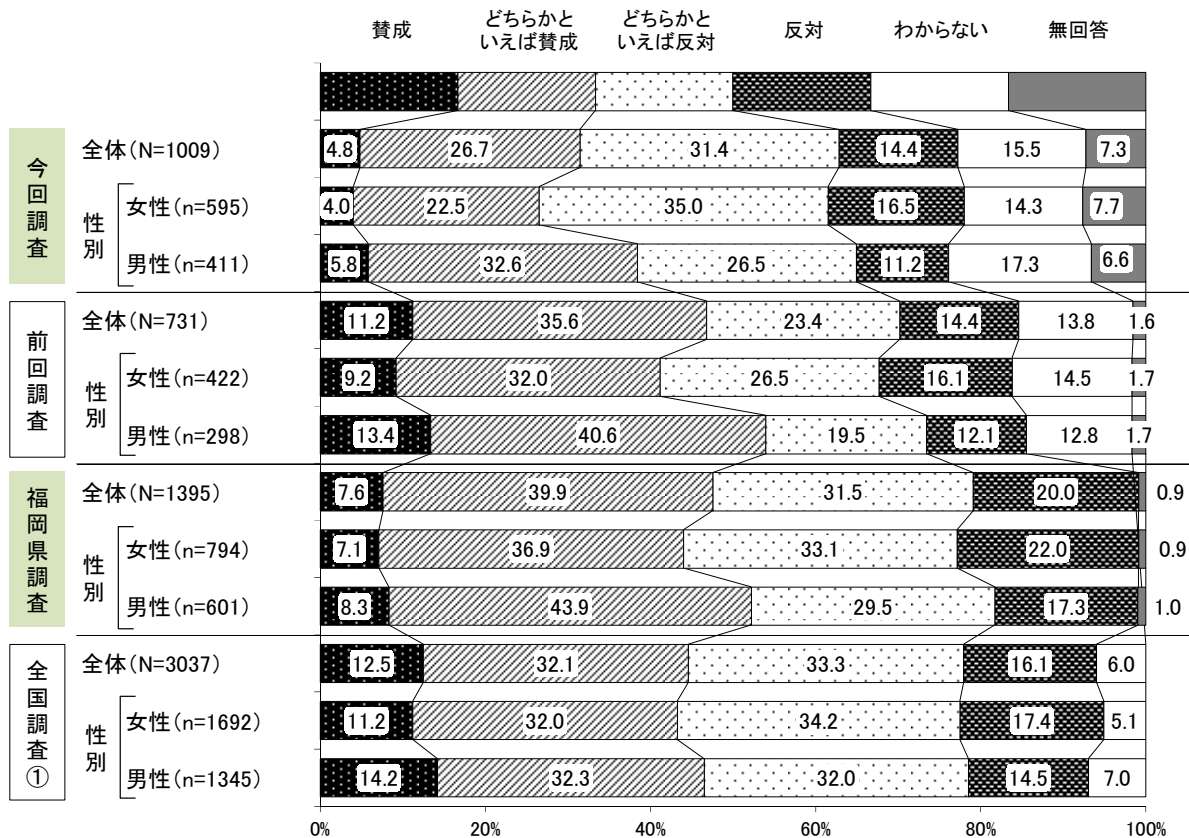
性別にみると、女性は『賛成派』が26.5%、『反対派』が51.5%と『反対派』が『賛成派』の約2倍の割合となっているのに対し、男性は『賛成派』が38.4%、『反対派』が37.7%と、ほぼ同程度となっており、男性の方が女性よりも「男は仕事、女は家庭」という考えに肯定的な人が多い。

前回調査と比較すると、質問形式が異なるため厳密な比較はできないが『賛成派』の割合は前回調査(46.8%)を15.3ポイントと大きく下回っている。性別においても、『賛成派』の割合は、女性は前回調査(41.2%)から14.7ポイント、男性も前回調査(54.0%)から15.6ポイント減少している。

福岡県調査と比較すると、質問形式が異なるため厳密な比較はできないが『賛成派』の割合は県の値(47.5%)を下回っている。性別にみても、同様の傾向がみられる。

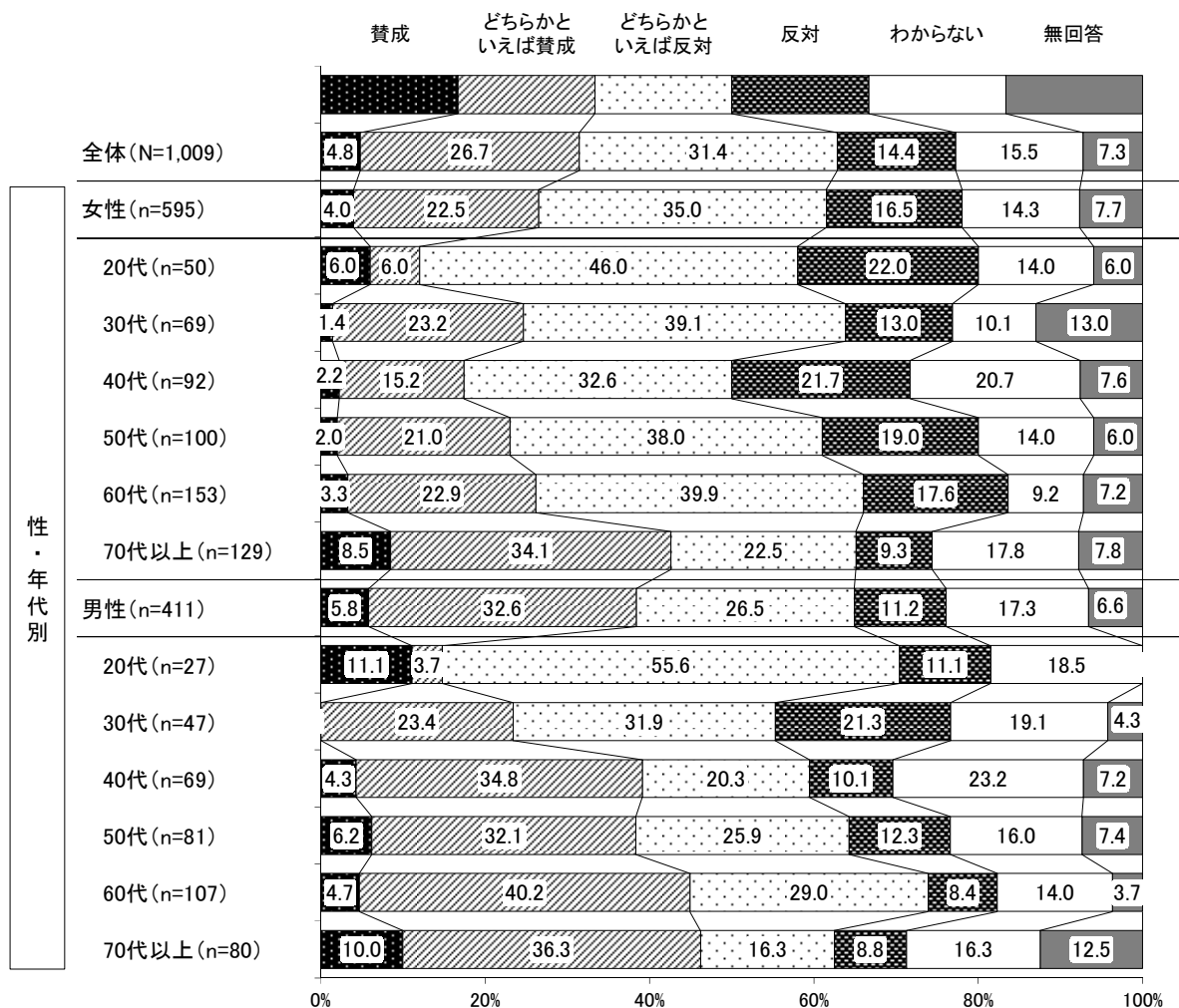
全国調査と比較すると、質問形式が異なるため厳密な比較はできないが『賛成派』の割合は国の値(44.6%)を下回っている。性別にみても、同様の傾向がみられる。

■ 固定的性別役割分担についての意識 (全体、性別) ■



性・年代別にみると、女性70代以上、男性40代以上は『賛成派』が『反対派』を上回っている。

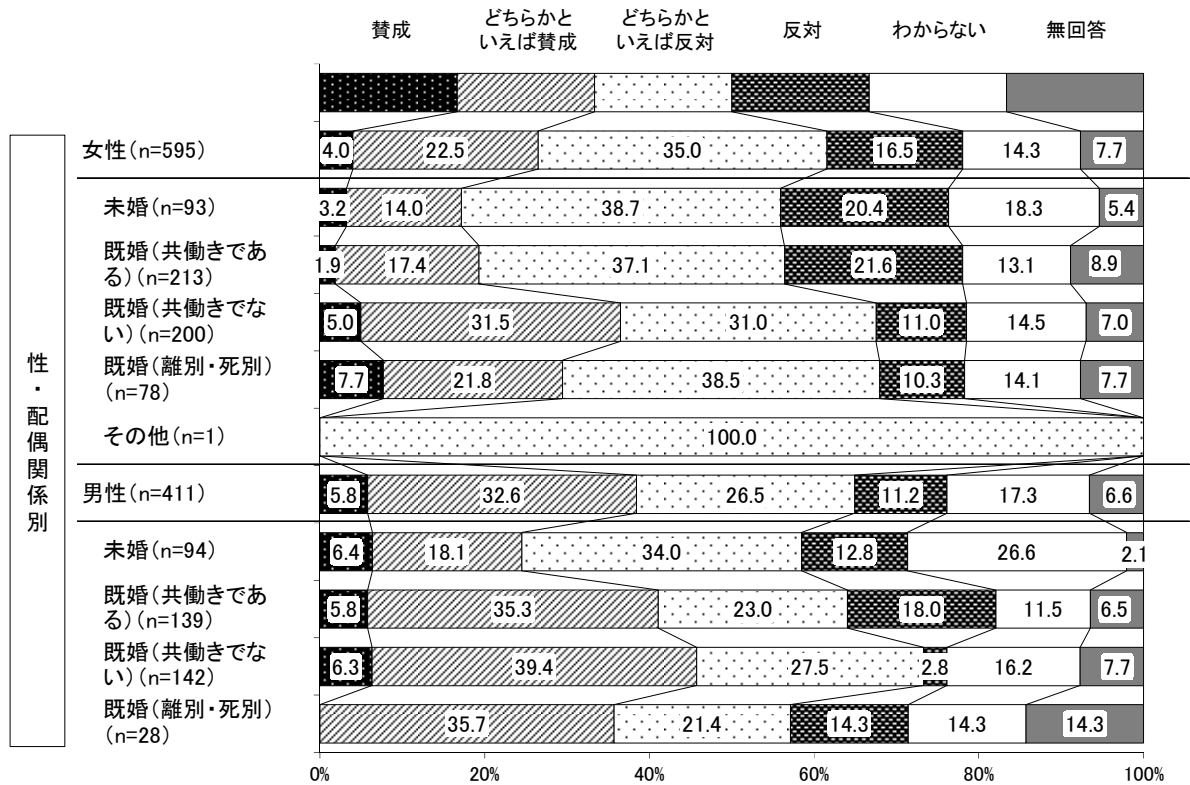
■ 固定的性別役割分担についての意識（性・年代別） ■



性・配偶関係別にみると、女性は「未婚」と「既婚（共働き）」においては『賛成派』と『反対派』の間に40ポイント程度の差がみられる。

一方、男性は「未婚」以外で『賛成派』の割合が『反対派』と同程度または上回っており、男女間の意識に差がみられる。

■ 固定的性別役割分担についての意識（性・配偶関係別） ■



(ア) 賛成と考える理由

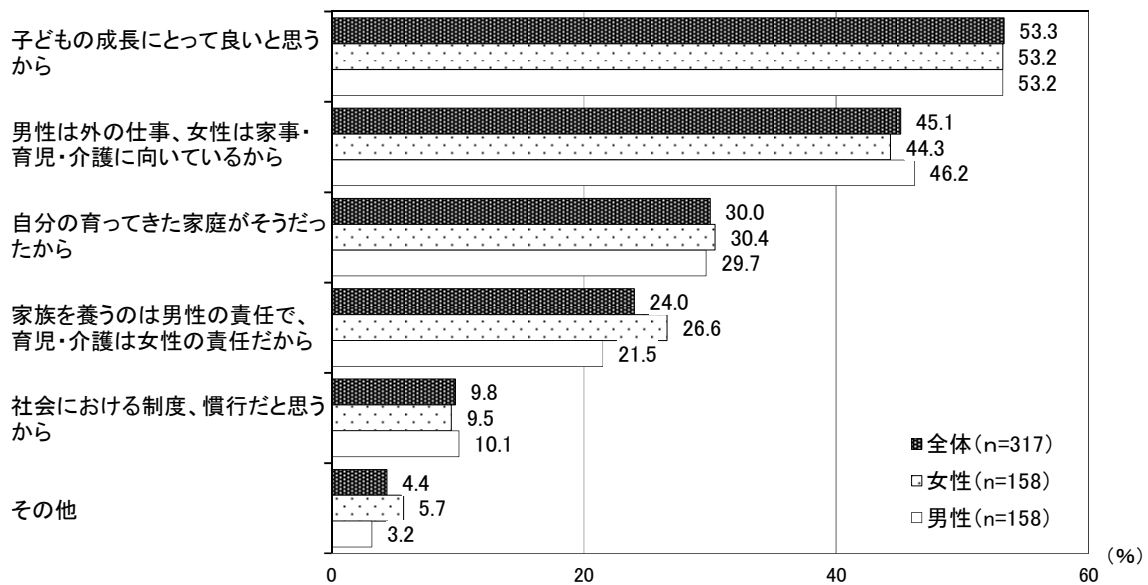
【問5で「1. 賛成」または「2. どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。】

問5SQ1. あなたがそう考える理由は何ですか。(〇印はいくつでも)

固定的性別役割分担について賛成の理由を尋ねたところ、「子どもの成長にとって良いと思うから」(53.3%)の割合が最も高く、次いで「男性は外の仕事、女性は家事・育児・介護に向いているから」(45.1%)、「自分の育ってきた家庭がそうだったから」(30.0%)などの順となっている。

性別にみると、女性、男性とも全体結果と同様の傾向であるが、「家族を養うのは男性の責任で、育児・介護は女性の責任だから」という理由は、女性が男性の割合をやや上回っている。

■ 賛成と考える理由 (全体、性別) ■



性・年代別にみると、女性は年代が上がるにつれて「家族を養うのは男性の責任で、育児・介護は女性の責任だから」の割合が高くなる傾向がみられる。

■賛成と考える理由（性・年代別）■

	サンプル数	子ども の成長 にとって	良 い 思 う か ら	子 ど も の 成 長 に と つ て	向 い て い る か ら	男 性 は 外 の 仕 事 、 介 護 に 性	男 性 は 外 の 仕 事 、 介 護 に 性	自 分 の 育 つ た か ら	自 分 の 育 つ た か ら	女 性 の 責 任 だ か ら	家 族 を 養 う の は 男 性 は の	行 社 だ と 思 う か ら	社 会 に お け る 制 度 、 慣	そ の 他	無 回 答
全 体	317	53.3	45.1	30.0	24.0	9.8	4.4	1.6							
女性 計	158	53.2	44.3	30.4	26.6	9.5	5.7	1.9							
20 代	6	66.7	16.7	50.0	-	16.7	16.7	-							
30 代	17	58.8	29.4	11.8	17.6	11.8	11.8	-							
40 代	16	50.0	37.5	25.0	18.8	12.5	18.8	6.3							
50 代	23	47.8	52.2	39.1	26.1	13.0	4.3	-							
60 代	40	55.0	50.0	27.5	27.5	5.0	2.5	2.5							
70代以上	55	50.9	45.5	32.7	34.5	7.3	1.8	1.8							
女性・年齢無回答	1	100.0	100.0	100.0	-	100.0	-	-							
男性 計	158	53.2	46.2	29.7	21.5	10.1	3.2	1.3							
20 代	4	50.0	25.0	25.0	-	-	25.0	-							
30 代	11	27.3	54.5	36.4	18.2	18.2	9.1	9.1							
40 代	27	70.4	33.3	29.6	14.8	14.8	-	-							
50 代	31	61.3	32.3	29.0	22.6	3.2	-	3.2							
60 代	48	54.2	56.3	33.3	20.8	10.4	4.2	-							
70代以上	37	40.5	54.1	24.3	29.7	10.8	2.7	-							
無回答	1	100.0	-	-	-	-	-	-							

(単位:%)

(イ) 反対と考える理由

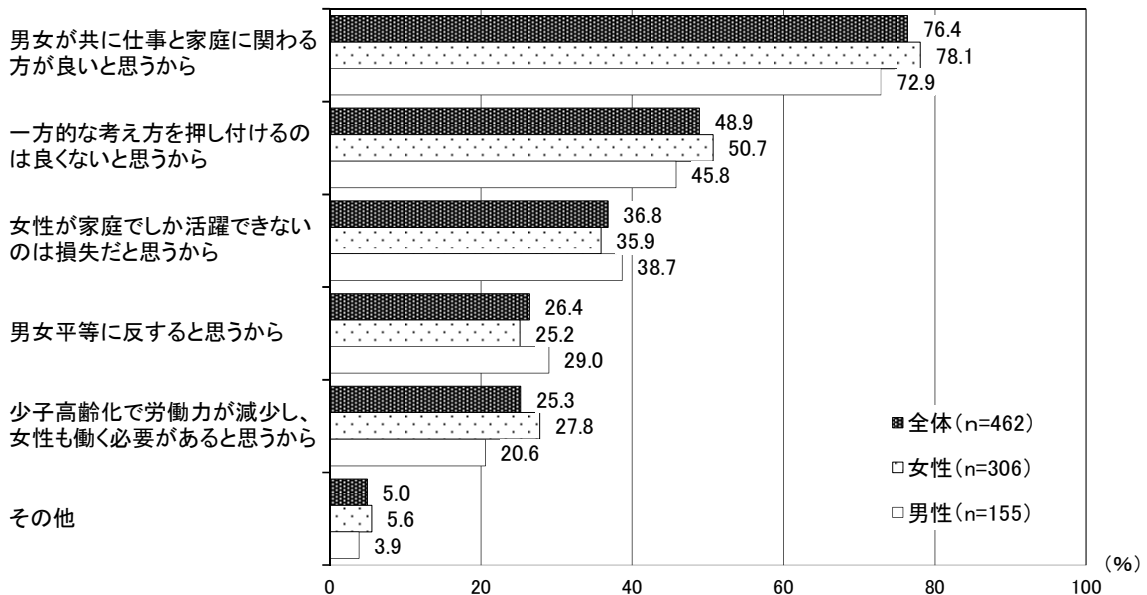
【問5で「3. どちらかといえば反対」または「4. 反対」と答えた方におたずねします。】

問5 S Q 2. あなたがそう考える理由は何ですか。(○印はいくつでも)

固定的性別役割分担について反対の理由を尋ねたところ、「男女が共に仕事と家庭に関わる方が良いと思うから」(76.4%)の割合が最も高く、次いで「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」(48.9%)、「女性が家庭でしか活躍できないのは損失だと思うから」(36.8%)などの順となっている。

性別にみると、「女性が家庭でしか活躍できないのは損失だと思うから」、「男女平等に反すると思うから」という理由は、男性が女性の割合を上回っている。

■ 反対と考える理由 (全体、性別) ■



性・年代別にみると、女性では30代で「男女平等に反すると思うから」、40代で「一方的な考えを押し付けるのは良くないと思うから」の割合が比較的高くなっている。

一方、男性では40代で「女性が家庭でしか活躍できないのは損失だと思うから」、「少子高齢化で労働力が減少し、女性も働く必要があると思うから」、50代で「一方的な考えを押し付けるのは良くないと思うから」、70代以上で「男女平等に反すると思うから」の割合が比較的高くなっている。

■反対と考える理由（性・年代別）■

	サンプル数	うに男 か関女 らわが る共 方に が仕 事良 いと 家思 庭	思一 うける かの は考 え方 を推 し	思で女 うき性 かなが らい家 の庭 はで 損し 失か だ活 と躍	う男 か女 ら平 等に 反す ると 思	要減少 があし る、高 齢化で 女性も 労働 力が 必が	その他	無 回 答
全体	462	76.4	48.9	36.8	26.4	25.3	5.0	1.7
女性計	306	78.1	50.7	35.9	25.2	27.8	5.6	1.3
20代	34	82.4	38.2	32.4	26.5	29.4	8.8	-
30代	36	69.4	55.6	36.1	38.9	22.2	8.3	-
40代	50	82.0	62.0	28.0	24.0	28.0	4.0	-
50代	57	87.7	40.4	33.3	28.1	22.8	1.8	1.8
60代	88	76.1	51.1	40.9	21.6	29.5	6.8	1.1
70代以上	41	68.3	56.1	41.5	17.1	34.1	4.9	4.9
男性計	155	72.9	45.8	38.7	29.0	20.6	3.9	2.6
20代	18	72.2	33.3	22.2	16.7	11.1	5.6	5.6
30代	25	76.0	52.0	40.0	28.0	8.0	4.0	-
40代	21	71.4	57.1	52.4	28.6	47.6	-	-
50代	31	67.7	61.3	41.9	22.6	12.9	3.2	3.2
60代	40	75.0	30.0	40.0	25.0	20.0	2.5	5.0
70代以上	20	75.0	45.0	30.0	60.0	30.0	10.0	-
無回答	1	100.0	-	-	-	-	-	-

(単位:%)

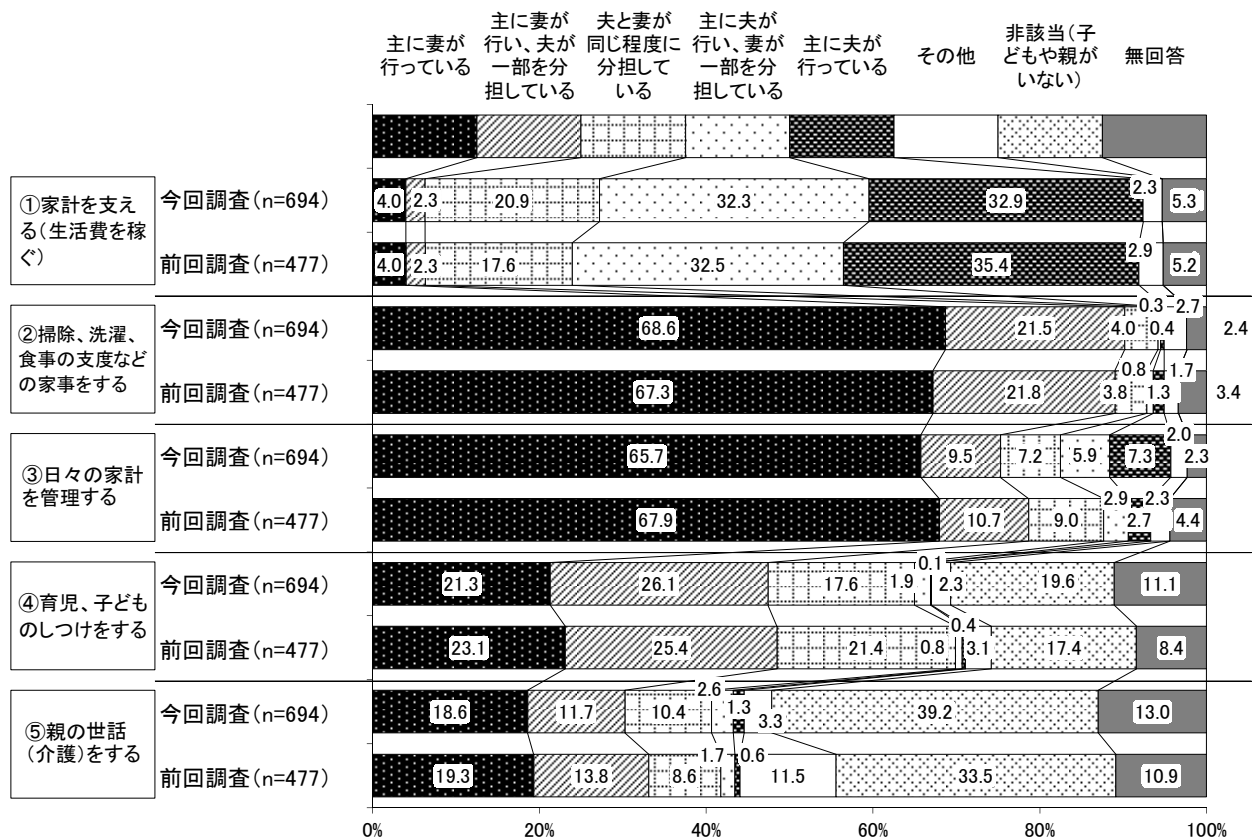
## (2) 家庭内の役割分担の状況

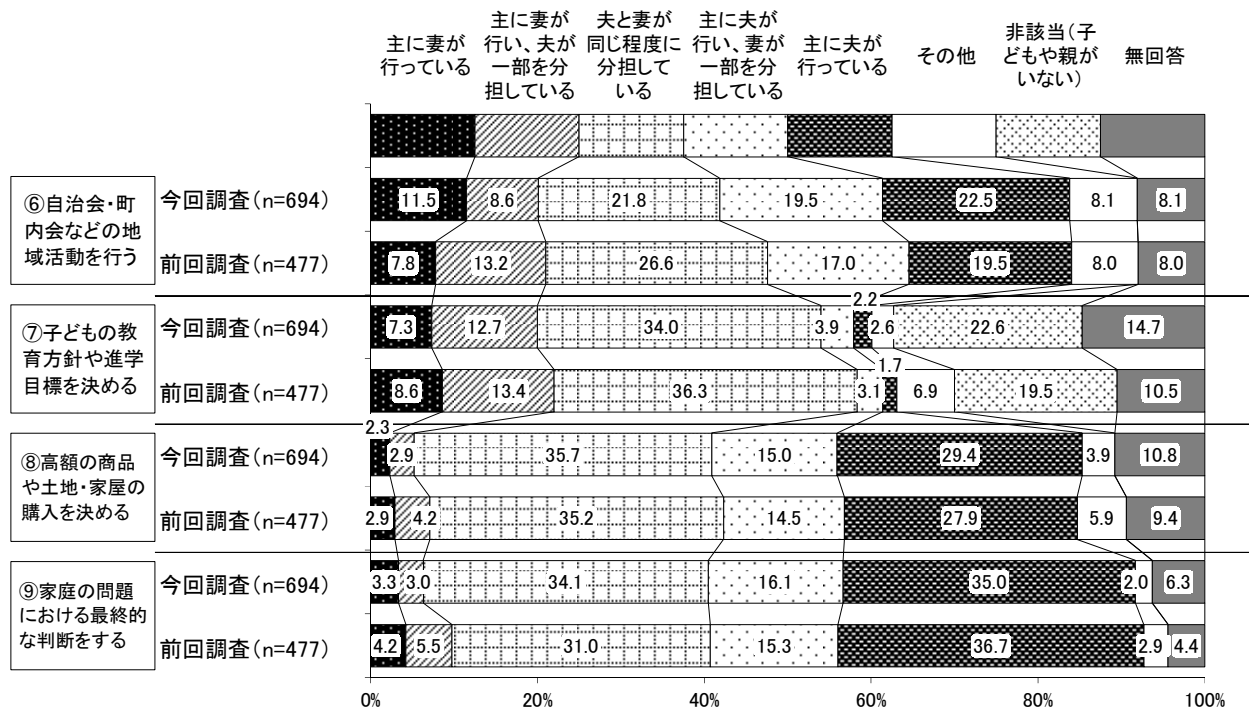
問6.【現在、配偶者がいる方に】あなたのご家庭では、次にあげるような家庭内の事柄を、主にどなたがしていますか。①から⑨の各項目について、最もあてはまるものを選んでください。(○印はそれぞれ1つ)

現在、配偶者がいる人に対し、家庭内の役割分担の状況について尋ねたところ、『妻中心型』(=「主に妻が行っている」+「主に妻が行い、夫が一部を分担している」)の割合が最も高いのは「②掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」(90.1%)で、次いで「③日々の家計を管理する」(75.2%)、「④育児、子どものしつけをする」(47.4%)、「⑤親の世話(介護)をする」(30.3%)の順となっている。一方で『夫中心型』(=「主に夫が行っている」+「主に夫が行い、妻が一部を分担している」)の割合が最も高いのは「①家計を支える(生活費を稼ぐ)」(65.2%)で、次いで「⑨家庭の問題における最終的な決定をする」(51.1%)、「⑧高額の商品や土地・家屋の購入を決める」(44.4%)、「⑥自治会・町内会などの地域活動を行う」(42.0%)の順となっており、「男が外、女は内」という性別役割分担が強く残っている傾向がみられる。

前回調査と比較すると、全体的にはほぼ同様の傾向であるが、「⑥自治会・町内会などの地域活動を行う」は、「夫と妻が同じ程度に分担している」から『夫中心型』にやや移行している。

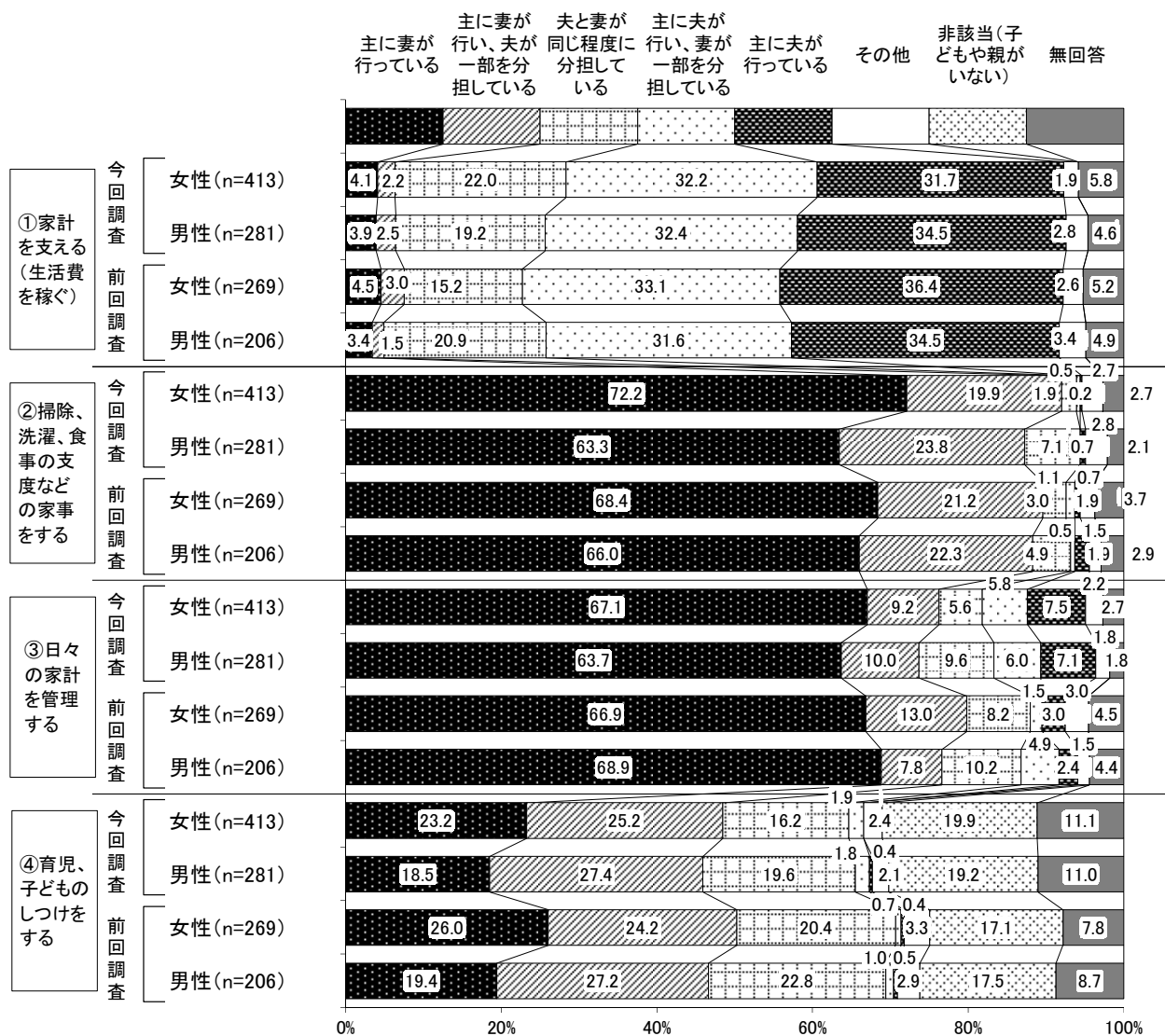
■ 家庭内の役割分担の状況 (全体) ■



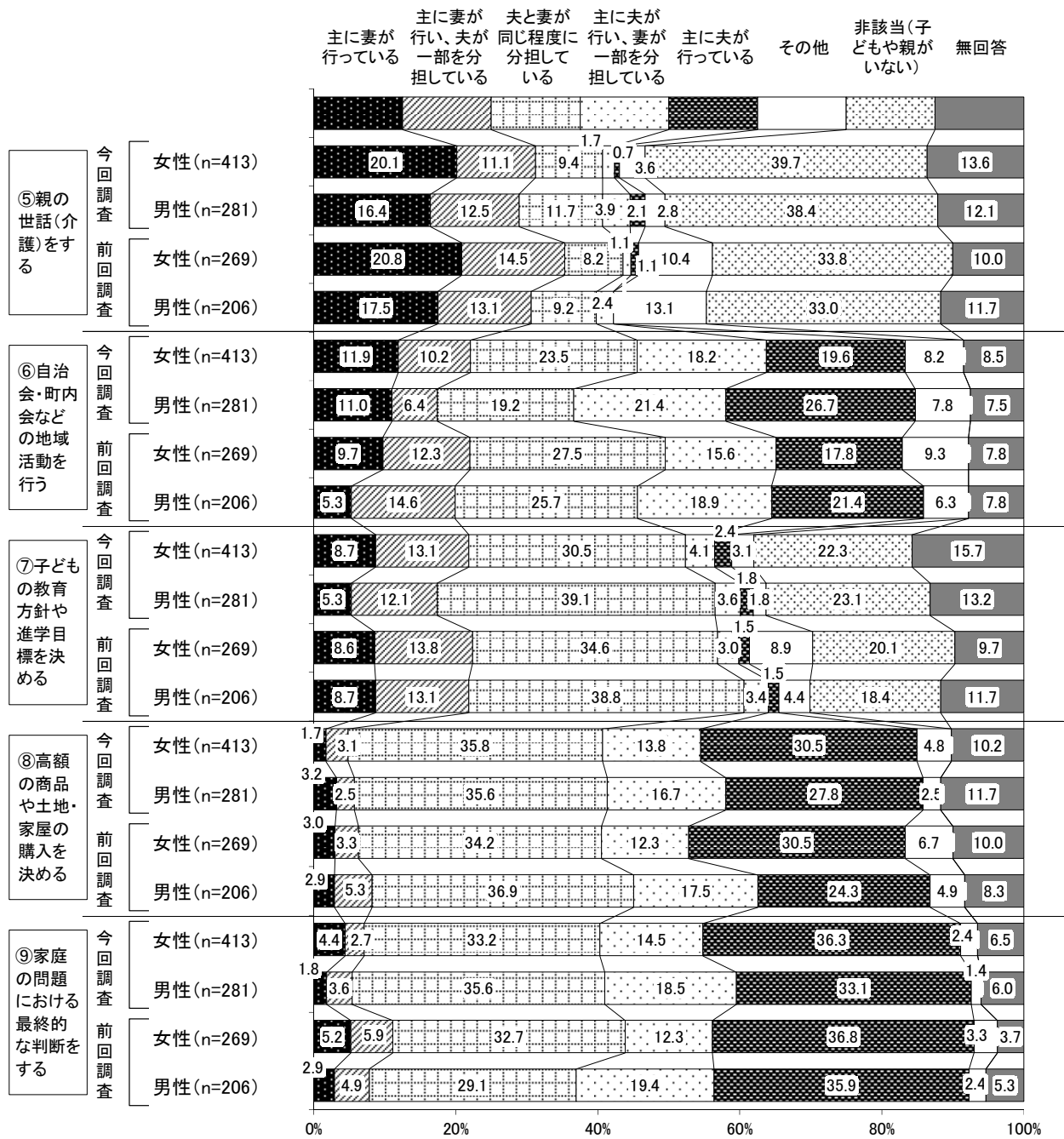


性別にみると、男女とも『妻中心型』の割合が高いのは「②掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」、「③日々の家計を管理する」、「④育児、子どものしつけをする」、「⑤親の世話（介護）をする」、『夫中心型』の割合が高いのは「①家計を支える」、「⑧高額の商品や土地・家屋の購入を決める」、「⑨家庭の問題における最終的な決定をする」となっており、前回と比較して大きな差はみられない。

■ 家庭内の役割分担の状況（性別） ■



■ 家庭内の役割分担の状況（性別） ■



性・配偶関係別にみると、男女とも、共働きであるかないかにかかわらず、『妻中心型』の割合が高いのは「②掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」、「③日々の家計を管理する」、「④育児、子どものしつけをする」、「⑤親の世話（介護）をする」、『夫中心型』の割合が高いのは「①家計を支える」、「⑧高額の商品や土地・家屋の購入を決める」、「⑨家庭の問題における最終的な決定をする」となっている。

また、「夫と妻が同じ程度に分担している」と回答した割合は、ほとんどの項目において女性、男性いずれも既婚の共働き世帯が既婚の共働きでない世帯を上回っているが、「②掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」、「③日々の家計を管理する」については、その差が小さい。

■家庭内の役割分担の状況（性・配偶関係別）■

	サンプル数	①家計を支える(生活費を稼ぐ)							②掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする									
		主に妻が行っている	主に妻が行っている、夫が一部を分担している	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が行っている、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他の家族	非該当(子どもや親がい)	無回答	主に妻が行っている	主に妻が行っている、夫が一部を分担している	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が行っている、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他	非該当(子どもや親がい)	無回答	
全体	694	4.0	2.3	20.9	32.3	32.9	2.3	-	5.3	68.6	21.5	4.0	0.3	0.4	2.7	-	2.4	
性・配偶関係別	女性計	413	4.1	2.2	22.0	32.2	31.7	1.9	-	5.8	72.2	19.9	1.9	0.5	0.2	2.7	-	2.7
	未婚	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	既婚(共働きである)	213	2.3	0.9	31.9	41.3	19.7	-	-	3.8	67.1	23.9	3.3	0.5	-	2.8	-	2.3
	既婚(共働きでない)	200	6.0	3.5	11.5	22.5	44.5	4.0	-	8.0	77.5	15.5	0.5	0.5	0.5	2.5	-	3.0
	既婚(離別・死別)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性計	281	3.9	2.5	19.2	32.4	34.5	2.8	-	4.6	63.3	23.8	7.1	-	0.7	2.8	-	2.1
	未婚	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	既婚(共働きである)	139	2.2	2.2	25.2	49.6	19.4	1.4	-	-	56.1	30.9	7.9	-	0.7	3.6	-	0.7
	既婚(共働きでない)	142	5.6	2.8	13.4	15.5	49.3	4.2	-	9.2	70.4	16.9	6.3	-	0.7	2.1	-	3.5
既婚(離別・死別)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

	サンプル数	③日々の家計を管理する							④育児、子どものしつけをする									
		主に妻が行っている	主に妻が行っている、夫が一部を分担している	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が行っている、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他の家族	非該当(子どもや親がい)	無回答	主に妻が行っている	主に妻が行っている、夫が一部を分担している	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が行っている、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他	非該当(子どもや親がい)	無回答	
全体	694	65.7	9.5	7.2	5.9	7.3	2.0	-	2.3	21.3	26.1	17.6	1.9	0.1	2.3	19.6	11.1	
性・配偶関係別	女性計	413	67.1	9.2	5.6	5.8	7.5	2.2	-	2.7	23.2	25.2	16.2	1.9	-	2.4	19.9	11.1
	未婚	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	既婚(共働きである)	213	68.1	7.0	8.9	5.6	6.6	2.3	-	1.4	24.4	31.9	21.1	2.8	-	1.4	13.6	4.7
	既婚(共働きでない)	200	66.0	11.5	2.0	6.0	8.5	2.0	-	4.0	22.0	18.0	11.0	1.0	-	3.5	26.5	18.0
	既婚(離別・死別)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性計	281	63.7	10.0	9.6	6.0	7.1	1.8	-	1.8	18.5	27.4	19.6	1.8	0.4	2.1	19.2	11.0
	未婚	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	既婚(共働きである)	139	64.0	9.4	10.8	6.5	7.9	1.4	-	-	14.4	34.5	26.6	3.6	-	2.2	14.4	4.3
	既婚(共働きでない)	142	63.4	10.6	8.5	5.6	6.3	2.1	-	3.5	22.5	20.4	12.7	-	0.7	2.1	23.9	17.6
既婚(離別・死別)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

(単位:%)

■家庭内の役割分担の状況（性・配偶関係別）■

	サンプル数	⑤親の世話(介護)をする								⑥自治会・町内会などの地域活動を行う								
		主に妻が行っている	主に妻が行っている、夫が一部を分担している	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が行っている、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他	非該当（子どもや親がいない）	無回答	主に妻が行っている	主に妻が行っている、夫が一部を分担している	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が行っている、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他	非該当（子どもや親がいない）	無回答	
全体	694	18.6	11.7	10.4	2.6	1.3	3.3	39.2	13.0	11.5	8.6	21.8	19.5	22.5	8.1	-	8.1	
性・配偶関係別	女性計	413	20.1	11.1	9.4	1.7	0.7	3.6	39.7	13.6	11.9	10.2	23.5	18.2	19.6	8.2	-	8.5
	未婚	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	既婚(共働きである)	213	20.7	11.7	13.6	1.9	0.9	4.2	38.0	8.9	12.2	12.2	28.2	16.9	14.1	10.8	-	5.6
	既婚(共働きでない)	200	19.5	10.5	5.0	1.5	0.5	3.0	41.5	18.5	11.5	8.0	18.5	19.5	25.5	5.5	-	11.5
	既婚(離別・死別)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性計	281	16.4	12.5	11.7	3.9	2.1	2.8	38.4	12.1	11.0	6.4	19.2	21.4	26.7	7.8	-	7.5
	未婚	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	既婚(共働きである)	139	15.1	15.8	13.7	5.8	2.9	4.3	36.0	6.5	8.6	9.4	23.7	23.0	21.6	10.1	-	3.6
	既婚(共働きでない)	142	17.6	9.2	9.9	2.1	1.4	1.4	40.8	17.6	13.4	3.5	14.8	19.7	31.7	5.6	-	11.3
既婚(離別・死別)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

	サンプル数	⑦子どもの教育方針や進学目標を決める								⑧高額の商品や土地・家屋の購入を決める								
		主に妻が行っている	主に妻が行っている、夫が一部を分担している	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が行っている、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他	非該当（子どもや親がいない）	無回答	主に妻が行っている	主に妻が行っている、夫が一部を分担している	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が行っている、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他	非該当（子どもや親がいない）	無回答	
全体	694	7.3	12.7	34.0	3.9	2.2	2.6	22.6	14.7	2.3	2.9	35.7	15.0	29.4	3.9	-	10.8	
性・配偶関係別	女性計	413	8.7	13.1	30.5	4.1	2.4	3.1	22.3	15.7	1.7	3.1	35.8	13.8	30.5	4.8	-	10.2
	未婚	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	既婚(共働きである)	213	9.9	19.7	39.0	2.8	1.9	1.9	15.5	9.4	1.9	4.7	42.7	11.7	28.6	4.2	-	6.1
	既婚(共働きでない)	200	7.5	6.0	21.5	5.5	3.0	4.5	29.5	22.5	1.5	1.5	28.5	16.0	32.5	5.5	-	14.5
	既婚(離別・死別)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性計	281	5.3	12.1	39.1	3.6	1.8	1.8	23.1	13.2	3.2	2.5	35.6	16.7	27.8	2.5	-	11.7
	未婚	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	既婚(共働きである)	139	5.8	9.4	51.8	3.6	2.2	1.4	20.1	5.8	2.2	3.6	41.7	16.5	25.9	2.2	-	7.9
	既婚(共働きでない)	142	4.9	14.8	26.8	3.5	1.4	2.1	26.1	20.4	4.2	1.4	29.6	16.9	29.6	2.8	-	15.5
既婚(離別・死別)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

	サンプル数	⑨家庭の問題における最終的な決定をする							
		主に妻が行っている	主に妻が行っている、夫が一部を分担している	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が行っている、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他	非該当（子どもや親がいない）	無回答
全体	694	3.3	3.0	34.1	16.1	35.0	2.0	-	6.3
性・配偶関係別	女性計	413	4.4	2.7	33.2	14.5	36.3	2.4	6.5
	未婚	-	-	-	-	-	-	-	-
	既婚(共働きである)	213	4.7	2.3	39.9	15.5	31.9	1.4	4.2
	既婚(共働きでない)	200	4.0	3.0	26.0	13.5	41.0	3.5	9.0
	既婚(離別・死別)	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性計	281	1.8	3.6	35.6	18.5	33.1	1.4	6.0
	未婚	-	-	-	-	-	-	-	-
	既婚(共働きである)	139	1.4	2.9	40.3	18.7	32.4	2.2	2.2
	既婚(共働きでない)	142	2.1	4.2	31.0	18.3	33.8	0.7	9.9
既婚(離別・死別)	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	

(単位: %)

### (3) 配偶者にかかわってほしい家庭内の仕事

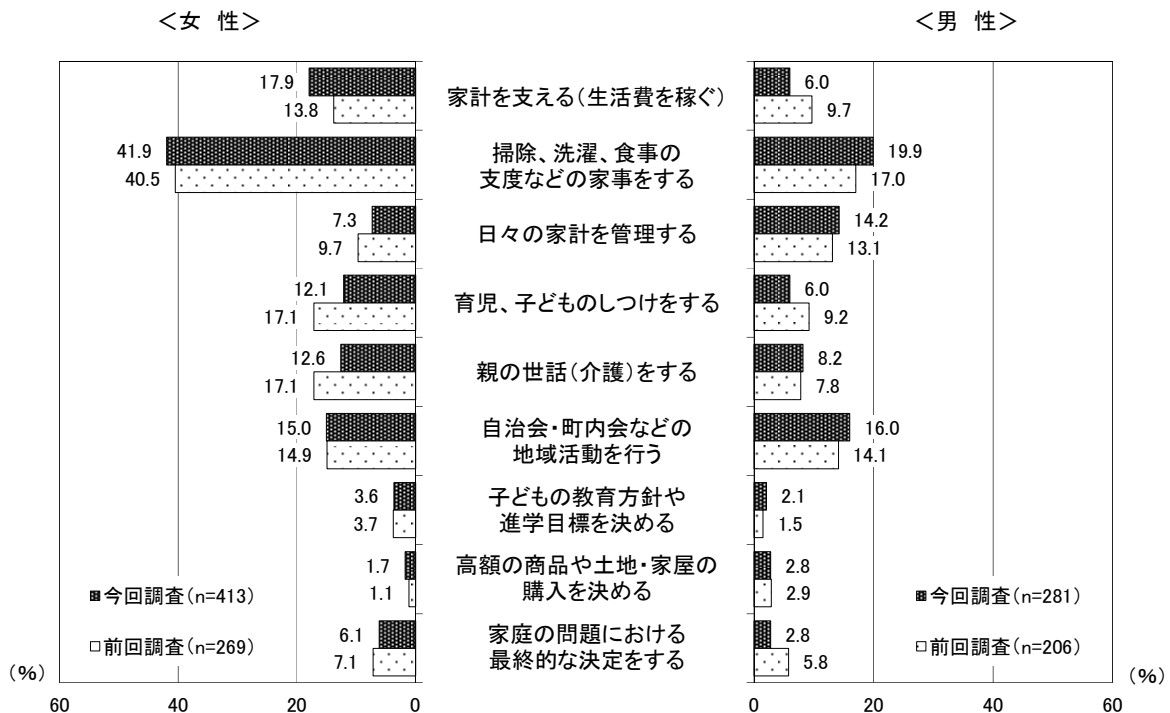
問6. また、あなたが、問6の①から⑨までの家庭内の事柄について、配偶者の方にもっとしてほしいことはどれですか。主なものを2つまで選び、下の枠の中に番号を記入してください。

現在、配偶者がいる方に、家庭内の事柄について配偶者の方にもっとしてほしいことは何か尋ねたところ、女性は「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」(41.9%)の割合が最も高く、次いで「家計を支える(生活費を稼ぐ)」(17.9%)、「自治会・町内会などの地域活動を行う」(15.0%)、「親の世話(介護)をする」(12.6%)、「育児、子どものしつけをする」(12.1%)の順となっている。男性も「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」(19.9%)の割合が最も高くなっているが、女性と比べると22.0ポイントも下回っており、女性ほど希望が高くないことがわかる。

男性の希望が女性の希望を上回っている項目は「日々の家計を管理する」、「自治会・町内会などの地域活動を行う」、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」となっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。

■ 配偶者にかかわってほしい家庭内の仕事 (性別) ■



#### (4) 育児、介護などの家庭内役割の評価方法に対する考え方

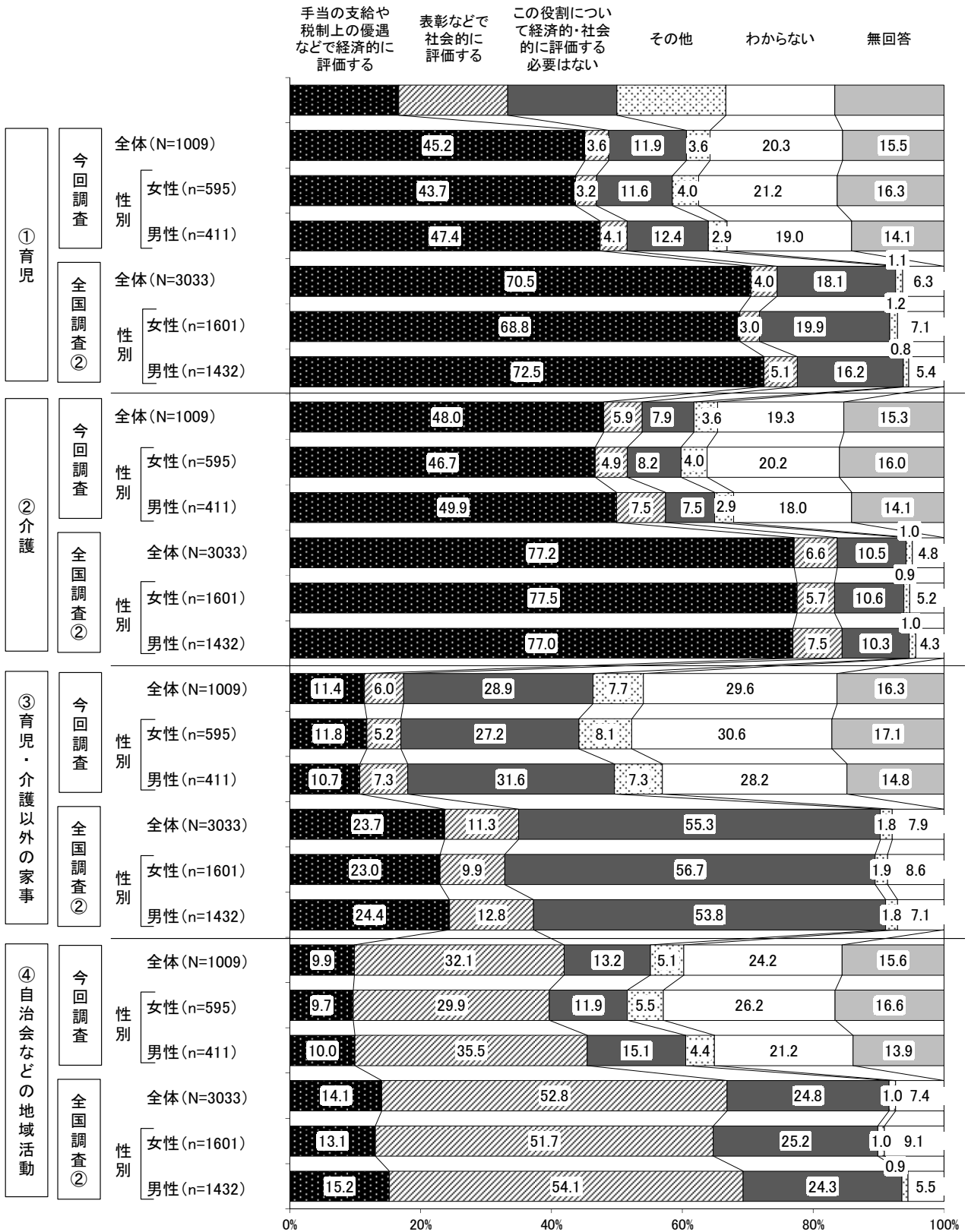
問7. 「育児、介護などの家庭で担われている役割は社会的にも重要であるため、社会全体で評価していこう」という考え方がありますが、あなたは具体的にどのような形で評価することが必要だと思いますか。①から④の各項目について、最もあてはまるものを選んでください。(○印はそれぞれ1つ)

育児、介護などを社会全体で評価する考えについて尋ねたところ、『評価する』(=「手当の支給や税制上の優遇などで経済的に評価する」+「表彰などで社会的に評価する」)の割合が最も高い項目は「②介護」(53.9%)で、次いで「①育児」(48.8%)、「④自治会などの地域活動」(42.0%)、「③育児・介護以外の家事」(17.4%)の順となっている。『評価する』が「評価する必要はない」を上回った項目は「①育児」、「②介護」、「④自治会などの地域活動」の3項目となっている。また、評価の方法についてみると、「①育児」、「②介護」については「手当の支給や税制上の優遇などで経済的に評価する」が、「④自治会などの地域活動」は「表彰などで社会的に評価する」の割合が最も高くなっている。このことから、「①育児」、「②介護」と「④自治会などの地域活動」については評価方法についての意識が異なっていることがわかる。

性別にみると、いずれの項目についても『評価する』と回答した男性の割合が女性の割合を上回っている。

全国調査と比較すると、傾向は概ね同様であるが、「わからない」と判断を留保する回答は大川市ではすべての項目で2~3割を占めて高くなっている。『評価する』と回答した割合は、大川市はすべての項目で全国調査を下回っている。特に「②介護」について、市(53.9%)は全国調査の83.8%を大幅に下回っている。また、「③育児・介護以外の家事」については「評価する必要はない」と回答した割合が市(28.9%)は全国調査(55.3%)を大きく下回っている。性別にみても同様の傾向がみられる。

■ 育児、介護などの家庭内役割の評価方法に対する考え方（全体、性別） ■



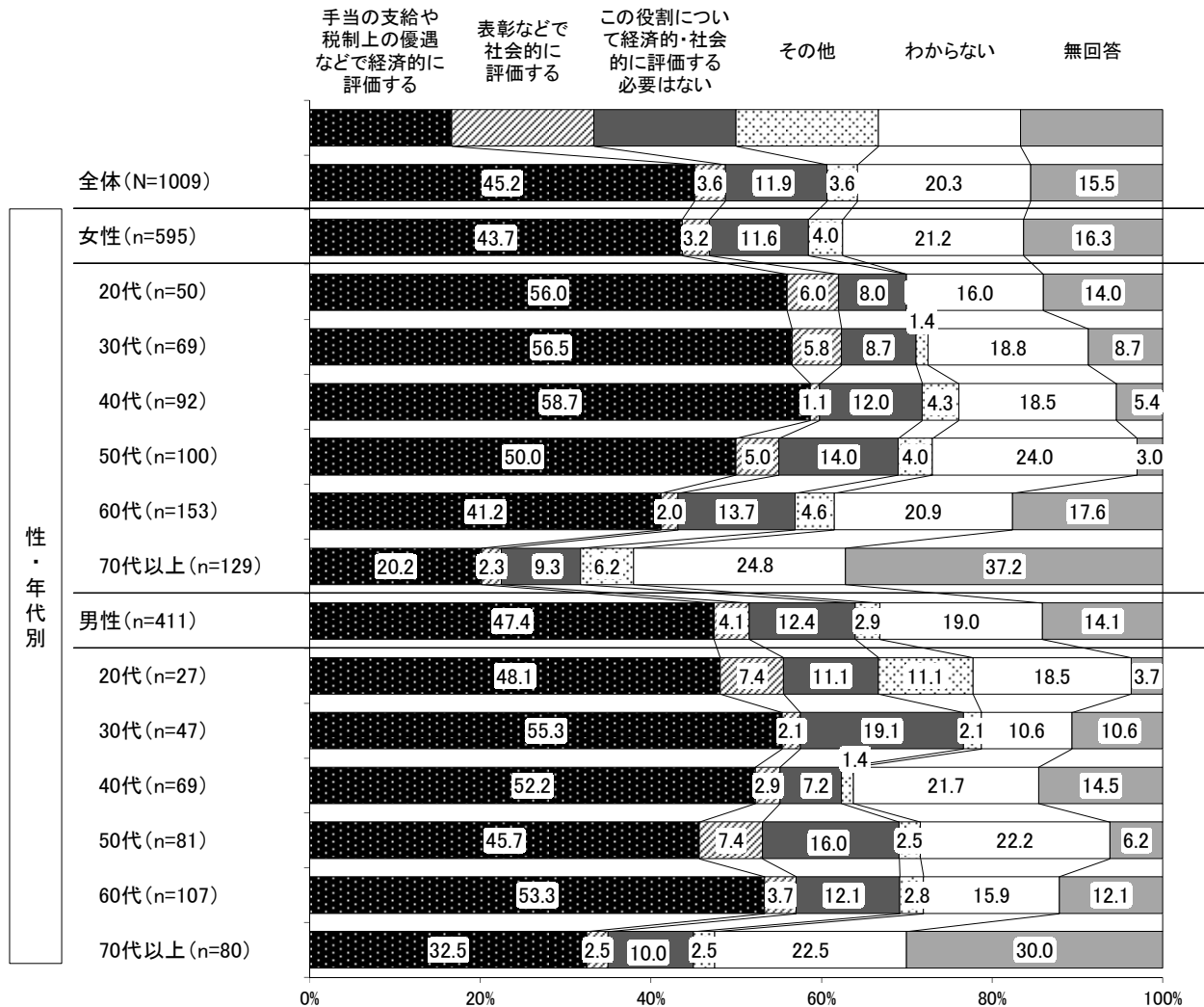
## ①育児

性・年代別にみると、いずれの年代も『評価する』が「評価する必要はない」を上回っている。また、概ね女性は年代が下がるにつれて『評価する』と回答した割合が高くなる傾向がみられる。

なお、『評価する』と回答した割合が最も高いのは、女性、男性とも30代（62.3%、57.4%）である。

### ■ 育児、介護などの家庭内役割の評価方法に対する考え方（性・年代別） ■

<①育児>



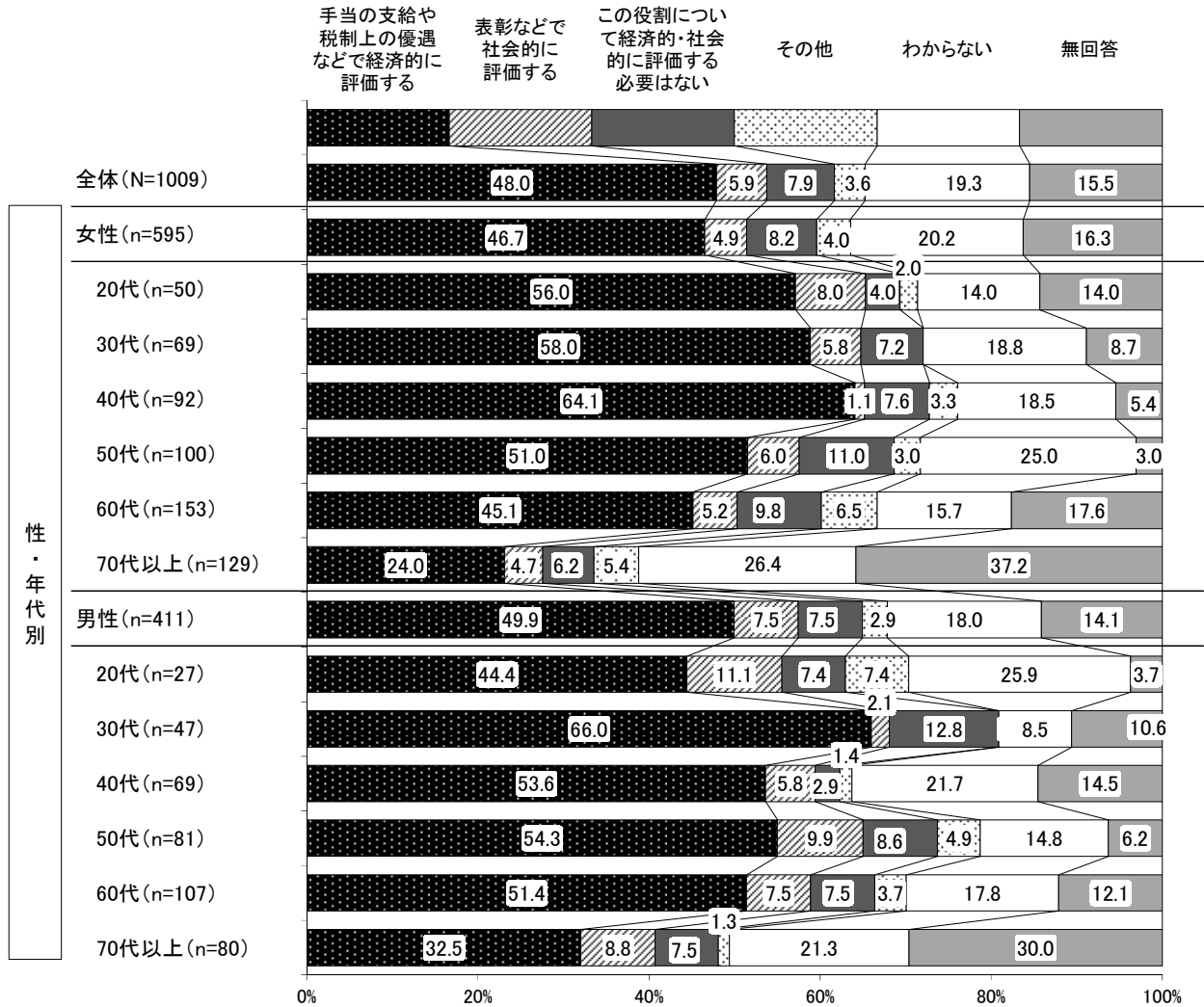
## ②介護

性・年代別にみると、いずれの年代も『評価する』が「評価する必要はない」を上回っている。また、女性は概ね年代が下がるにつれて『評価する』と回答した割合が高くなる傾向がみられる。

なお、『評価する』と回答した割合が最も高いのは、女性40代(65.2%)、男性30代(68.1%)である。

### ■育児、介護などの家庭内役割の評価方法に対する考え方(性・年代別) ■

<②介護>



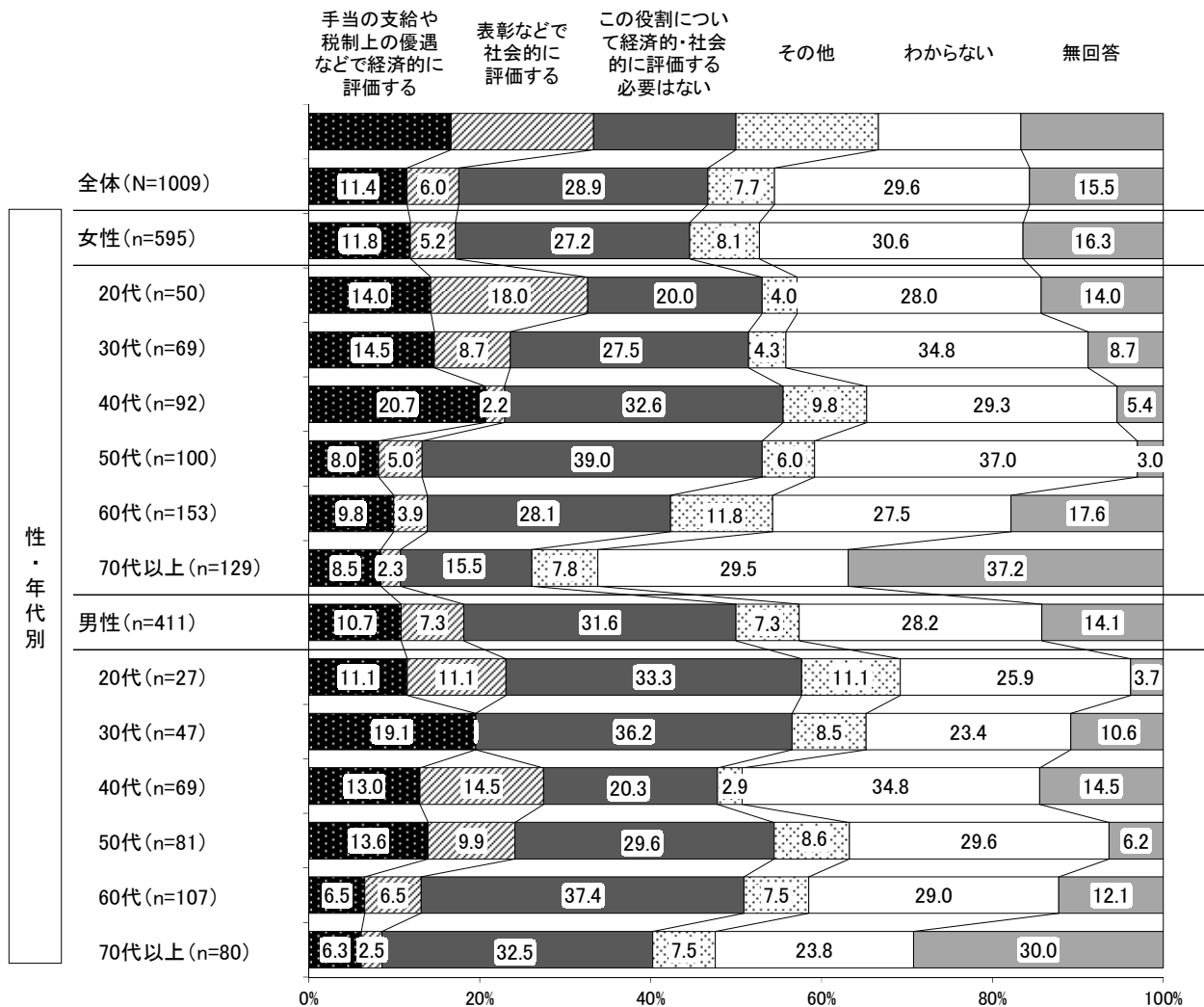
### ③育児・介護以外の家事

性・年代別にみると、女性20代、男性40代以外で「評価する必要はない」が『評価する』を上回っており、他の項目とは異なる傾向がみられる。また、女性は概ね年代が下がるにつれて『評価する』と回答した割合が高くなる傾向がみられる。

なお、『評価する』と回答した割合が最も高いのは女性20代（32.0%）、男性40代（27.5%）であるが、それぞれ3割前後と、他の項目と比較すると低い割合となっている。

■ 育児、介護などの家庭内役割の評価方法に対する考え方（性・年代別） ■

<③育児・介護以外の家事>



#### ④自治会などの地域活動

性・年代別にみると、いずれの年代も『評価する』が「評価する必要はない」を上回っている。また、女性は概ね年代が下がるにつれて『評価する』と回答した割合が高くなる傾向がみられる。

なお、『評価する』と回答した割合が最も高いのは、女性40代(54.4%)、男性20代(51.8%)である。

#### ■育児、介護などの家庭内役割の評価方法に対する考え方(性・年代別) ■

<④自治会などの地域活動>

